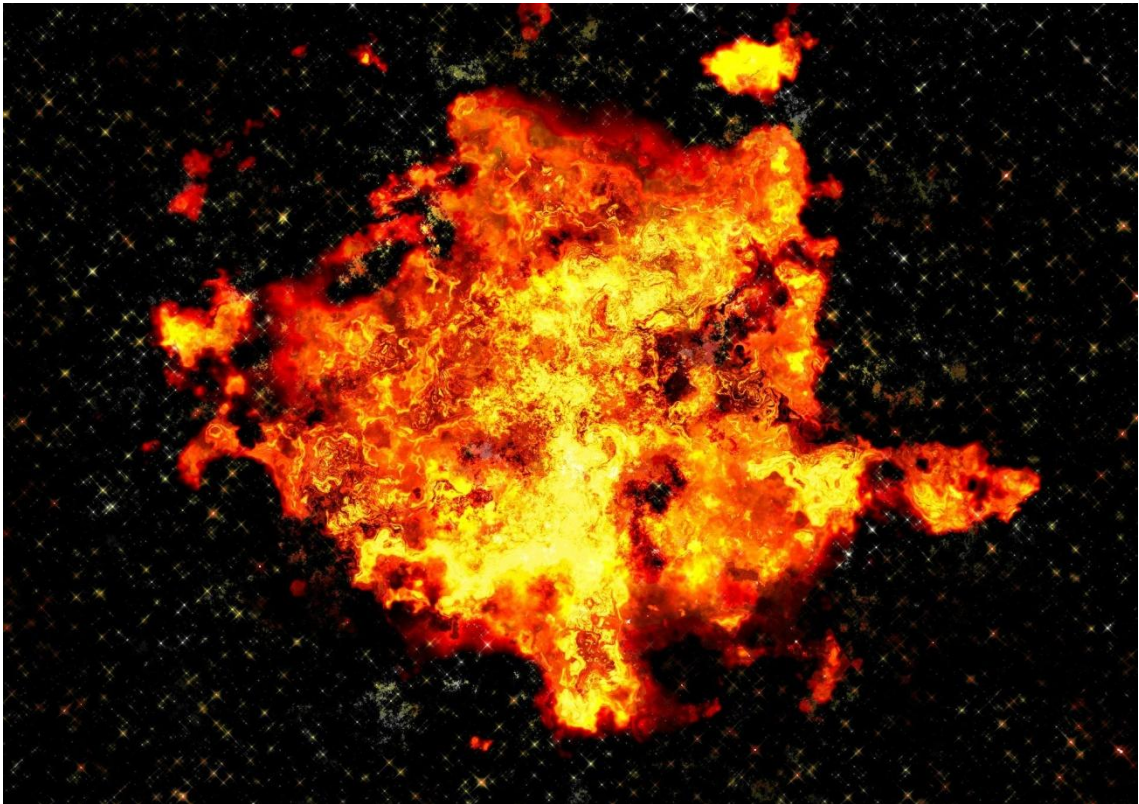


■不幸は突然やってくる、
罪があろうがなかろうが

修正： 2021.04.01

投稿： 2021.04.01



●不幸は突然やってくる、罪があろうがなかろうが①

「失われた 30 年」などと言われていますが、
いやいや、これが本来の姿なのでは、
と思えてしまいます。

//-----

「触らぬ神に祟りなし」と言うように、
悪いことさえしなければ幸せに暮らしていける、
とそうのように私たちは何となく考えてしまいます。
が、こうした考え方は通用しません。

津波に飲まれ、海に消えた人。
ビルが倒壊し、半分になった人。
搭乗した飛行機が墜落し、臓器が露出した人。
粉碎機に巻き込まれて、コンクリートになった人。
遠心分離機に落ち込み、スポンジになった人。
…。

災難に見舞われた人は、不幸になるべき理由があって
災難に見舞われたわけではありません。
「ただそこにいた」という理由で災難に遭ったのです。
悪いことをしたとかそういう話ではありません。

以前、両親を交通事故で亡くした人が、
「こんな悲惨な事故を繰り返してはいけない！」
と交通安全を呼びかけていたときに、
自身も交通事故に巻き込まれて命を落とす、
という事件がありました。

この世は理不尽です。

災難は、どのような気持ちで生きているかに関係なく、
何の前触れもなく、罪があるとかないとも関係なく、

ただそこにいたから、という理由で降りかかってきます。

もしあなたが、今まで大した災難に遭わずに済んできたのであれば、それは、日々の行いが善いからなどではなく、たまたま
災難が発生した場所から離れていただけにすぎないのです。

(続)

//=====//

●不幸は突然やってくる、罪があろうがなかろうが②

危険ドラッグを使用したドライバの運転する暴走車に、
後ろから跳ね飛ばされて死亡した、という事故がありました。
ただ普通に道を歩いてただけで、突然、悲劇に見舞われる、

この世は理不尽です。

昔から、「時かぬ種から芽は出ない」と言われてきました。
「悪いことが起こったのは悪い種を蒔いたからですよ」と、
「だから善い種を蒔きなさい」と説かれてきたわけです。が、

悪いことなどしておらず、ただ道を歩いてただけで、
後ろからいきなり跳ね飛ばされてしまう、これが現実です。

「付き合っていた彼から別れ話を切り出されてしまった」とか、
「得意先から一方的に契約を破棄されてしまった」とか、
この程度の話なら、「何かこちらにも不手際があったのでは？」
と反省する余地を見つけることは難しいことはありません。

対して、後ろから暴走車に跳ね飛ばされたとなれば、

「それはあなたの自業自得です」とは言えません。
しかしこうした事故は今も起こり続けています。

「自分は何も悪いことはしていないから、
災難なんて降りかかってこないだろう！」と、
「触らぬ神に祟りなし」「蒔かぬ種から芽は出ない」
を根拠にして、**思考停止**してはいけません。

現実では、触らぬ神からも祟りはありますし、
蒔いてもないところから芽が出ます。ゆえに、
暴走車、強盗、猛獣、地震、津波、ミサイル、などなど、
事前に災難を想定し、対策を講じていかなければなりません。

誰もが、ただ道を歩いていただけで、
命を落とすかもしれない世の中なのですから。

(続)

//=====//

●不幸は突然やってくる、罪があろうがなかろうが③

強盗に遭遇した人、テロに巻き込まれた人、
猛獣に遭遇した人、噴火に巻き込まれた人、
不幸の種を蒔いた覚えがないにも関わらず、
ある日、突然、不幸はやってくるものです。

「川で遊んでいて溺れました」というのであれば理解できます。
川で遊ぶという**原因**があつて溺れるという**結果**を誘発した
のであり、川で遊ばないようにするという**反省**ができるからです。

しかし、「**飲酒運転のトラックに轢かれました**」では、
「ふざけるな、お前も、同じ目に遭わせてやる」と、
メラメラと復讐心が芽生えてくるというものでしょう。

こうした事故は殺意なき殺人であり、
大抵は、本人のうっかりや怠慢で起こります。
だから「気をつけろ！馬鹿野郎！」という話ですが、それでも、
事故を起こされて被害を受けるのは**被害者の方**ですから、
事故を**想定**し、**回避**する努力は必要になります。

これには「**リスクマネジメント**」
という言葉がぴったりでしょうか。

もし暴走車が突っ込んできたら、どっちに避けようかとか、
もし堤防が決壊したら、どこから避難しようかとか、
もしスズメバチが顔に止まったら、どう対処しようかとか、
もし宇宙人に遭遇したら、どうコミュニケーションしようかとか、

人間は、雪崩や津波といった圧倒的な危機を
初めて目の当たりにすると、思考が一時的に完全に停止しますから、
平常時のうちに緊急時の対応を考えておかねばなりません。

いざという時は、ほんの **2〜3 秒で**
生死を分ける判断をしなければならないのですから。

(続)

//=====//

●不幸は突然やってくる、罪があろうがなかろうが④

搭乗した飛行機が墜落したり、宿泊していたホテルが崩壊したりと、もはや個人の努力だけでは、**どうにも避けられない悲劇**もあります。神がお決めになった**「運命」**として受け入れる以外に手はありません。

理由もなく理不尽に死ぬのは納得できない、
という気持ちはよく分かります。しかし、神様から見れば、**あなたが死ぬことに理由はいらない、**のです。

それでも、災難に遭った理由を
あえて求めるなら**「そこにいたから」**となります。
神様は、あなたが死ぬにあたって、
納得の理由をいちいち用意してくれない、ということです。
己の無力を受け入れ、現実に合わせて自らを変えるしかありません。

ただ、理不尽な事故に巻き込まれる確率は分かっていますから、
その上で飛行機に乗るということは、
確率的に死ぬことも受け入れた、ということになります。
この点が唯一の自業自得と言えるかもしれません。
そんなに飛行機事故で死にたくなければ、
絶対に飛行機に乗らないというのも手です。

こうしたことを意識しているだけでも、
最悪の事態に対する心の準備はできるものです。そうすれば、
そうならなかった日常をありがたく感じられるものですし、
本当に最悪の結果に至ってしまったとしても、
心の準備ができている分、ストレスは軽減されるはずです。

**「神よ、変えることのできるものについて、
それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。
変えることのできないものについては、
それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。
そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、
識別する知恵を与えたまえ。」**

これはアメリカの神学者ラインホルド・ニーバーの言葉です。
受け入れがたく変えることもできない現実は確かに存在します。

目指すべき理想はあるかもしれませんが、
力を前に屈するのも現実です。幸せのためには、
そうした現実も、冷静に受け入れなければなりません。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)